

話題 其の54 : 自衛隊派遣にもの申す

1月19日、とうとう陸上自衛隊の先遣隊がイラクのサマーフに到着しました。
「北朝鮮に拉致された家族を返せ」と訴える人々の輪が大きくなり、「命の大切さ」を十分解っている日本人が、同じ命を自らイラクに派遣する不可思議さに矛盾を感じます。

イラク復興支援には自衛隊を送らなくても、いくらでも方法はあります。
現地の人たちが待ち望んでいるのは復興です。
その復興の過程を外国の軍隊に任せるのではなく、自らの生計を立てる仕事にしたいのです。
その為に、現地の人たちに会社を興させ、破壊された橋やビルや道路建設に多くの人たちを雇うことが出来る筈です。
その仕事に必要な建設機械や道具の提供は、自衛隊派遣よりも安全で安価な筈です。
「目の前に多くの為すべき仕事があるのに何故やらせてくれないのか？」
イラク国民にとっては「外国の軍隊が雇用機会を損失させている」と見るでしょう。

「自衛隊員に、もしものことがあったらどうなるのか？」
テロリストの狙いは「話題性の高い破壊活動」です。
従って、国連であれ、一般市民であれ報道性の高い標的を無差別に攻撃します。
この攻撃によってメディアを動かし、アメリカに打撃を与えるのが狙いです。
「自衛隊員は自己防衛の訓練を受けている」のは確かでしょうが、毎日アメリカ軍兵士が命を落としている現状ではそれも無意味だと誰にでも解ります。
自衛隊員にももしものことがあったら、アメリカは軍の駐留延期の理由に利用するでしょう。

日本政府は子ども達の教育をどのように考えているのか？
「如何なる理由があろうとも、誰一人として、暴力を用いて人に危害を加える権利は無い」
これは民主主義の原則であり、いつの時代も教育の原点であると信じています。
アメリカのイラク武力侵攻に積極的に賛同した日本政府。
アメリカがイラク人の一人をも武力によって傷つける理由や権利が何処にあるのでしょうか。
「この現状を私は自分の子ども達にどのように説明すればいいのですか？」
この問いかけは、まさしく世界中に共通した教育の課題です。

世界中がゲーム感覚で事の成り行きを傍観しているような気がします。
イラク攻撃は殺人行為です。犯罪です。私は、アメリカによる暴力を一切認めません。
今も、目の前で戦争が続いているのです。

この暴力が実行される前に「日本はそれを容認しません」と明確な態度を世界に示して欲しかった。我々日本国民が、誰の前に立っても「日本は暴力を容認しない国なのです」と誇れるようにして欲しかった。

日本国政府がノーを言わないと、日本国民がノーを言わないことなのです。
この態度表明は国際協力現場で活動する者にとって、大きな阻害要素でしかありません。
これまでの平和構築、貧困対策を目的とした途上国支援の成果やイメージを破壊します。
まだ手遅れではありません。将来を担う子ども達へ「正義を実行する勇気」という最大の教育を提供されることを切望します。
同時に、我々が選んだ政治家達が21世紀のガンジーとされることを切望するものです。
